

## 情報通信技術の進歩と学校

盛岡市教育委員会 教育委員 佐々木 健



スマートフォンに向かって「小学校国語科の目標は」と問いかけると、「言葉による見方・考え方」と瞬時に応えてくれ、さらに詳しい説明までしてくれる。情報通信技術の進歩がこれを可能にした。

今、国を挙げて学校の情報通信技術の活用に取り組んでいる。学校内の通信環境の整備、教室への大型投影機とスクリーンの設置、そして、一人一台のタブレット端末の配布等々。本年一月の盛岡市教育研究所

研究発表大会で、「自由進度学習」の研究実践発表があった。今求められている「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現。そのために情報通信技術を活用する。一人一人の学びの過程にどう対応するか、新たな取組に関心をもって聞かせていただきたい。

また、同じ一月に教育振興運動中学生リーダー研修会があった。各校の代表が自分の学校の社会参加活動の取組の成果や課題について発表し、意見を交流し合う。その際、タブレットの画面で分かりやすく説明したり、発表資料を作ったりする場面を見ることができた。生徒たちの活用の広がりとともに、資料作成やプレゼンテーションの力も着実に伸びてきていると感じた。

情報通信技術の大きな進歩と期待される人工知能が登場した。これからの学校は、この人工知能も活用した新たな学習指導が展開されることとなる。先の「自由進度学習」の実践は、これからの学習指導の一例を示してくれたものと思っている。今後の各学校での取組に期待したい。

文部科学省では二〇三〇年以降の社会を見通した学習指導要領の改訂作業を進めている。情報通信技術の目覚ましい進歩の中で、学校では何をどう学び、どんな能力を付けていけば良いのか、審議経過にも注目していきたい。

### 「ひろばモリーオ」

サテライト分室  
中央分室からの眺め



こずかた写真館 ⑦

春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪化粧と、四季折々の風景を贅沢に味わえる静かな分室です。和室では、庭園を散策する人や野鳥の声が心を和ませ、子どもたちは学習や遊びに集中し、大人たちも穏やかに見守っています。季節の移ろいととともに、人と学びのふれ合いが静かに息づく心安らぐ空間です。



# 令和7年度盛岡市教育研究所

## 第60回研究発表大会

令和8年1月6日、都南公民館・キャラホール及び市民総合運動公園体育館を会場として、第60回研究発表大会を開催し、市内外から約350名の先生方に御参加いただきました。ここでは、全体研究発表及び分科会発表の概要について、参加者の感想も交えながら紹介します。

### 全体研究発表

今年度の全体研究発表は、二つの会場に分かれ、本市の喫緊の課題である「児童生徒の不登校対策に関する研究」及び「特別支援教育に関する研究」、「小中学校におけるICT活用に関する研究」の3本を発表しました。



【小ホール】特別支援教育に関する研究



【大ホール】ICT活用に関する研究

小ホールで行われた不登校対策の発表では、市内学校の取組成果と課題を整理し、学生対象の意識調査を踏まえた今後の方策等が示されました。特別支援教育の発表では、中学校区連携の実践事例と、変化する教育環境を踏まえた今後の連携の在り方等について提案がありました。

大ホールで行われたICT活用の発表では、個別最適学習の一手法である自由進度学習の実践を通して、子どもに学習を委ねるといった授業改善の視点が示されました。仁王小学校と下橋中学校による実践発表では、取組にあたっての指導上の工夫や直面した課題が報告されました。

〔学力向上(外国語)分科会〕  
全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、4名の研究員が、課題領域である「話すこと(やりとり)」「読むこと」「書くこと」「コミュニケーション力を支える文法力」の育成に係る学習材を協働で作成し、当日配布しました。それらを活用することで、令和8年度の盛岡市の正答率を全国値に限りなく近づけることを企図した有意義な発表となりました。

・校内教育支援センターが全校に設置され、その役割と効果が数値で裏付けされていた点は極めて意義深い内容だった。関係者としてその成果を実感している。  
・特別支援教育においては、地域内に核となる教員を置き、情報共有や交流を図ることで校区内の支援体制を強化できるといことが分かった。  
・不登校対策も特別支援教育も相互互助的な支援体制の構築が鍵になると感じた。  
・約半数の児童生徒が一斉指導に適応していないという現状を踏まえ、子どもに学習を委ねる自由進度学習の可能性に大きな期待を抱いた。  
・ICT活用に留まらず、授業の本質的な在り方を考えさせられる内容だった。「まずはやってみる」という言葉に元気をもらった。

〔分科会後の感想から〕  
提示された教材と取組によって、生徒の力が調査結果として数値に表れている点は、大変説得力があった。加えて、学習量に応じて生徒の



学力向上(外国語)分科会



学力向上(算数・数学)分科会

自信が高まっている様子が見て取れたことも印象的だった。  
・県学調の結果を踏まえた現状と対策について、丁寧な説明が、今後の授業改善に生かせる内容を多く学ぶことができた。  
〔学力向上(算数・数学)分科会〕  
全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、児童生徒の数学的な見方・考え方を豊かにすることを目指した授業改善例を提案しました。算数・数学の授業づくりに向けて、単元で身に付けたい資質・能力を明確にすることや、資質・能力の育成につながる効果的な数学的活動の具体などについて、実践事例をもとに理解を深める機会となりました。

### 〈分科会後の感想から〉

- ・実際の授業場面が想起され、とても参考になった。説明に必要な用語を日々積み重ねていくことの大切さや、深い学びの在り方を考える良い機会となった。

- ・誤答の分析結果を基に「授業改善の視点」を明確にし、単元指導構想を練る取組は、自校にも取り入れたい内容であった。

### 【体力向上分科会】

運動領域ごとの特性や魅力を最大限に生かし、「運動の楽しさ」を追究した実践が紹介されました。実技研修では、器械・器具を使った運動遊びや、サッカーとバスケットボールを題材に、「場」「ルール」「準備運動」「ICT活用」の工夫による楽しさを味わう手立てを体験し、学びと充実感に満



体力向上分科会

ちた時間となりました。

### 〈分科会後の感想から〉

- ・運動の楽しさを実感できる内容で大変勉強になった。教員が体験した楽しさを子どもたちに伝えることの大切さを再認識できた。

- ・成長段階に応じた運動のポイントや楽しみながら体力を高める工夫が具体的に示され、すぐに授業に活用できる実践的な内容で参考になった。

### 【先人教育分科会】

第3期計画1年目の実践となる渋民中学校区(渋民中・渋民小)は、児童生徒の主体的な生き方・考え方の育成のために、地域の先人である石川啄木を学習の中心に据え、「小中の学びの系統性・連続性」や「キャリア教育の視点」を踏まえた実践を展開しました。地域の方々も先人として捉える取組も行われ、参加者にとって学びの多い有意義な発表となりました。

### 〈分科会後の感想から〉

- ・石川啄木に関する学習を繰り返すことで多様な視点から啄木を理解できる有意義な先人教育であると感じた。地域で活躍する方々を先人と捉える考え方にも共感した。
- ・幅広く生き方や考え方に触

れるキャリア教育の視点を入れながら理解を深めていくことの有効性を改めて感じた。



先人教育分科会

### 【キャリア教育分科会】

令和6年度から委託研究を進める仙北中学校区(仙北中・仙北小・向中野小)がキャリア教育の実践を発表しました。9年間を通した体系的なキャリア教育計画を策定し、授業や体験的な活動、児童会・生徒会活動等をキャリア形成の視点で見つめ直した取組は、今後の教育実践に資する示唆に富む内容でした。

### 〈分科会後の感想から〉

- ・9年間を見通したキャリア教育全体計画とそれを補填するアンケートの見直しは素晴らしいと感じた。
- ・中学校区としての一体感が感じられた。組織・理念・実践が有機的に結びつき、全職

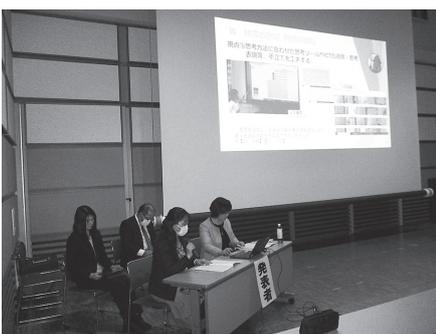
員一丸となって取り組む姿勢が子どもたちの確かな成長に直結していることを実感した。



キャリア教育分科会

### 【研究指定校中間発表】

来年度に学校公開研究会を控えた、城東中学校(令和6年度指定教育課程一般)と向中野小学校(令和6年度指定国語科・算数科)の2校に、研究推進の状況について発表いただき、これまで



研究指定校中間発表

の研究成果と今後の取組の方向性について、活発な意見交換がなされました。

### 〈中間発表後の感想から〉

- ・両校の取組から「主体的・対話的で深い学び」を具現化するための有効な手立てを学ぶことができた。城東中における自由進度学習の多様な工夫は、個別最適な学びと協働的な学びの調和を図る上で極めて示唆に富む内容であった。向中野小のキャリア教育と連動したメタ認知の育成についても、振り返りを3つの観点で捉え、全校統一で取り組む徹底ぶりに感銘を受けた。自らの学びを客観的に捉え、調整していく姿こそが主体性であることを再認識した。

盛岡市教育研究所では、研究成果の普及を目的として、「研究紀要」を作成しております。

PDFデータ版を各学校へ送付するとともに、教育研究所HPに掲載いたします。

各学校における今後の研究推進に、ぜひ御活用ください。

## 令和7年度

# 盛岡市教育振興運動実践発表大会

盛岡市の教育振興運動は、今年度60年目を迎える歴史ある市民運動です。

今年度は、第12次5か年計画の5年目を迎えました。5年間を通しての共通目標である、「地域総ぐるみで『たくましく生きる盛岡の子』を育もう」をテーマに、6地区での地区集

会が実施され、各地区の実践を交流する貴重な機会となりました。地区集会で発表された見前小学校区、大新小学校区の2小学校区の実践と、「巻堀神楽」の演舞、健やかに育つ児童生徒の発表・表彰の姿を通して、今年度の運動の成果を確認することができました。

## 児童生徒発表

巻堀小・中学校

『巻堀神楽』

巻堀神楽 演目

- ・通り神楽
- ・笹の舞

巻堀小・中学校の児童生徒と巻堀神楽伝承会の皆様には、伝統ある「巻堀神楽」をご披露いただきました。「巻堀神楽」は、約150年にわたり地域で受け継がれ、盛岡市の無形民俗文化財に指定されている貴重な文化です。勇壮で迫力ある舞が練り広げられ、会場は大きな拍手に包まれました。

## 実践発表

見前小学校区

「健康安全」「健全育成」「学力向上」を柱とした取組において、子どもたちが地域のよさを実感できる貴重な機会となっている、地域の伝統行事「虫追いまつり」や、子どもたちの学習や生活を支える「学校支援ボランティア」の活動の様子が発表されました。子どもたちがよりよい学校生活を送るための環境を整えるなど、教育振興運動と学校運営協議会が連携した取組についても紹介されました。

大新小学校区

「大新フェス」や学年レクの取組では、子ども達の意見を丁寧に取り、計画の立案につなげるなど、工夫を凝らした取組が紹介されました。また、図書ボランティアの皆様による読み聞かせなど、地域と連携した充実した活動も展開されていました。様々な場面での子ども達の楽しそうな様子から、保護者・地域・学校が「ワン・チーム」となり、地域の子どもを共に育てようとする小学校区の特徴が伝わってきました。



開会行事の様子



ご参会の皆様の様子



【巻堀小・中学校「巻堀神楽」】

令和7年度  
**第22回**  
**盛岡市教育委員会児童生徒表彰**  
**第20回**  
**盛岡市小中学生俳句・短歌大会**

令和7年度の「児童生徒表彰」並びに「俳句・短歌大会」の表彰式が、令和8年2月7日(土)に盛岡市民文化ホール(マリオス)で開催されました。児童生徒表彰受賞者と、俳句・短歌大会各部門において特選に選ばれた方々の作品をご紹介します。

**児童生徒発表**

〔努力の部〕

- 盛岡市立津志田小学校  
4年 吉田 希帆さん
- 盛岡市立山岸小学校  
6年 八重樫駿太朗さん
- 岩手大学教育学部附属小学校  
6年 豊巻 大地さん

《授賞理由》

年齢により階級が変わる太極拳で、常に技を磨き続けながら日々練習に励んできました。その不断の努力が実を結び、栄えある第一位を獲得しました。

〔善行の部〕

- 盛岡市立山岸小学校  
6年 小山 明稲さん
- 川原 寿星さん
- 佐藤 理海さん



《授賞理由》

6年生の5名の皆さんは、体調不良で倒れている人を見つけた際に協力して救助を求め、迅速かつ適切な行動をとりました。5年生の熊谷さん

- 松本 仁椰さん
- 三井 玲楽さん
- 5年 熊谷 花柊さん

**俳句・短歌大会**

俳句の部(特選)

〔小学生低学年の部〕

- 海行った  
つなみけいほう  
すぐたいさん
- 城北小 2年 吉田月優那

〔小学生中学年の部〕

- おぼんだま  
のぐちじやなくて  
きたざとだ
- 太田東小 3年 内出波瑠

〔小学生高学年の部〕

- 東京は  
山がないのに  
坂がある
- 手代森小 6年 吉田浩介

〔中学生の部〕

- 盆休み  
半端なしおりと  
文庫本
- 米内中 3年 名須川颯汰

短歌の部(特選)

〔小学生低学年の部〕

- ほし空に  
うちあげられる 夜の花  
目にひかる花  
こころにひびく
- 中野小 2年 石川奏多

〔小学生中学年の部〕

- 海の声  
波の洋服 ゆらされて  
ザザンザザンと  
うたっているよ
- 山岸小 4年 高橋彩佳

〔小学生高学年の部〕

- 帰り道  
君と並んだ かげふたつ  
のびて交わる  
言葉なきまま
- 中野小 6年 小向空愛

〔中学生の部〕

- ギラギラと  
日ざしの刺さる 夏の海  
体に響く  
水の冷たさ
- 見前中 2年 鳥居光流

学校賞

大会への参加率と入賞率が高い学校に贈られます。

- 〔小学校〕 中野小学校
- 〔中学校〕 巻堀中学校



〔応募総数〕

- 俳句 7,959作品
- 短歌 6,445作品

〔審査いただいた方々〕

- 国際俳句協会会員
- ・馬場 吉彦 先生
- 元岩手県歌人クラブ
- 及び白蘋短歌会
- ・菊澤 研一 先生
- ・山本 豊 先生

# 教育で大切にしたいこと

## ～教職員へのメッセージ～

市小・中学校長会の会長として、盛岡市の学校教育を牽引していただいたお二人の校長先生からのメッセージです。

### 「子どもが主体的に学ぶ」 学校教育への道

盛岡市小学校長会

会長 有馬 賢  
(北松園小学校長)



日本政府  
が提唱する  
未来社会の  
コンセプトの

「Goety(ソサエティ)5・0」  
(以下、ソサエティ5・0と表  
記する。)第5期科学技術基本  
計画において、「サイバー空間  
とフィジカル空間を高度に融  
合させたシステムにより、経  
済発展と社会的課題の解決を  
両立する人間中心の社会」と  
してソサエティ5・0が初め  
て提唱されています。

教育現場で「ソサエティ5・  
0」に具体的に組み込むため  
に、小学校学習指導要領総則  
をよく理解し、各校の学校経  
営かつ校内研究で具現化して  
いくことが重要と考えます。

「基礎的・基本的な知識及び  
技能を確実に習得させ、これ  
らを活用して課題を解決する

ために必要な思考力、判断力、  
表現力等を育むとともに主体  
的に学習に取り組む態度を養  
い、個性を生かし多様な人々  
との協働を促す教育の充実に  
努めること」と学習指導要領  
の役割が示されています。小  
職は、これまで体育科の授業  
改善による主体的な子ども  
育成に取り組んできておりま  
す。体育科教育においては、  
高田典衛先生の「楽しさの四  
原則」がある授業が望ましい  
とされています。その楽しさ  
とは、以下のとおりです。一、  
動く楽しさ：一定量の運動量  
に達したときの爽快感を味わ  
う楽しさ。二、集う楽しさ：  
子どもが仲間と親しく付き合  
い、生きる喜びを感じ取る楽  
しき。三、解かる楽しさ：何  
か新しい知識や喜び、ものの  
見方・考え方に新たな方向を  
見出す楽しさ。四、伸びる楽  
しき：自分の進歩や新しい自  
分が出現する楽しさ。

### 《高田典衛先生の紹介》

岩手県出身。東京教育(現  
筑波)大学附属小学校教諭・  
教頭を経て、文部省体育局長

育官。昭和49年より現筑波大  
学体育科学系教授。(子ども  
のための体育)より引用)

体育科教育における授業分  
析は、量的研究から導き出さ  
れた尺度が示されています。  
また、授業は多角的な面を持  
ち合わせているので、質的な  
研究を追究しています。エス  
ノグラフィ、マイクロエス  
ノ、ナラティブ分析など子ど  
もたちの思考や意思決定に至  
るまでを分析し、主体的な学  
びへの一助とするものであり  
ます。

小職は、授業の腕を磨くに  
はたくさん授業を参観し、  
自分の授業を多くの方に見て  
いただき、対話することが大  
切だと考えております。そこ  
で得た知見を「盛岡の文化・  
岩手の文化」として伝え、子  
どもたちの主体的な学びを保  
障する力となることを願い、  
これからの教育文化の継承・  
発展に繋がることを期待して  
おります。

### 感化

盛岡市中学校長会

会長 及川 公子  
(土淵中学校長)



教員採用試  
験を受験した  
ときの問題  
で、今も強く

印象に残っているものがあり  
ます。30年以上も昔のことで、  
文言はややふやですが、「これ  
まであなたが読んだ本の中か  
ら、先生が描かれている本を  
3冊あげて、その先生につい  
てあなたが思うところを述べ  
なさい」といった内容だった  
と記憶しています。(違ってい  
たらすみません。)

最初に思い浮かんだ本は、  
子どもころ何度も読んだ「二  
十四の瞳」。先生はまさに子ど  
もたちのあこがれ。澁淵とし  
てさわやかな、優しい先生の  
姿がそこにありました。

続いて、「チップス先生さよ  
うなら」。この本では、大切  
な教え子を戦場に送ることに  
なった先生の苦悩する姿が描  
かれていました。

そしていよいよ3冊目。そ  
れは、「二房の葡萄」です。絵  
具を友達から盗んだことを心  
から反省し後悔する少年に、  
先生は「明日はどんなことが  
あっても学校に来なければな  
りません。あなたの顔を見な  
いと私は悲しく思いますよ。  
きつとですよ。」と声をかけま  
す。少年は生涯この言葉を忘  
れることはないだろうと思っ  
ました。愛情深い尊い先生の  
姿。この本は、今も私の大好  
きな本です。

教員採用試験でこの問題が  
出題されたのは、改めて、受

験者自身がどのような理想の  
先生像をもっているのかを考  
えてもらうためだったので  
しょうか。そのようなことを  
考えながら、必死に解答を仕  
上げました。

子どもたちは、よく先生を  
見ていると思います。先生が  
明るい笑顔でいれば、子ども  
は安心します。先生が丁寧な  
言葉遣いをすれば、子どもは  
心穏やかになります。先生が  
一生懸命教えようとすれば、  
子どもはそれに応えようと頑  
張ります。先生が真剣に話を  
聞いてくれれば、子どもは本  
音を聞かせてくれます。また、  
先生方が一枚岩で結束してい  
るときには、子どもたちの生  
活が整っていきます。小学生  
も中学生も同じです。

「感化」という言葉がありま  
す。私たち教師は、子どもた  
ちに大きな影響を与える存在  
であることを、いつも心にと  
めておきたいと思えます。子  
どもたちが学校生活を楽しく  
過ごし、存分に力を発揮して成  
長できるように、私たちは心  
を尽くし、努力を惜しまない  
先生の姿でありたいものです。

そのためにも、まずは健康  
に留意し、自身の姿を心の鏡  
で見るとりと、日々のユー  
モアも大切です。皆様のご活  
躍を心からお祈りし、私のメッ  
セージといたします。

# 盛岡市教育振興運動 第13次5か年計画(案)を策定

盛岡市教育振興推進委員会は、今年度4回の策定委員会を開催し、「第13次5か年計画(令和8年度～12年度)」の最終案をまとめました。

子どもを中心に、家庭・地域・学校・行政の五者が連携し、教育課題の解決に取り組む基本理念は変わりませんが、地域のつながりの希薄化や、スマートフォン利用時間の増加など、子どもを取り巻く環境の変化を背景に、持続可能で実効的な運動を目指す方向性が確認されました。

## 1 第13次計画の運動目標

今回の計画では、運動目標を、「地域みんなで育もう『自分を大切にし、人を思いやり、ふるさとを愛する盛岡の子』と定めました。

この目標には、子どもたちが自己肯定感を高め、思いやりをもち、地域とのつながりを深めることで、健やかな成長を遂げてほしいという願いが込められています。

## 2 第13次計画の運動の重点

第13次計画では、二つの重点を掲げています。一つ目は「チャレンジ!体験活動」。地域行事や自然体験、伝承活動、勤労・奉仕活動など、多様な体験を通じて、子どもの心を育みます。二つ目は「コントロール!自分時間」。学習・読書習慣の定着や、情報機器との適切な付き合い方、生活習慣の改善を通じて、時間を上手に使う力を養います。

## 3 持続可能な取組とするための推進体制

今後は、学校運営協議会との連携・協働を軸に、学校運営協議会の協議内容をもとにしながら、具体の活動や学校支援を行っていきます。

さらに、中学校区を基本とした地区編成により、小中のつながりを強化し、地域と学校が一体となって、9年間を通して子どもを育んでいくことを目指します。

盛岡市教育振興運動第13次5か年計画(令和8年度～12年度)案

### 運動の目標

地域みんなで育もう「自分を大切にし、人を思いやり、ふるさとを愛する盛岡の子」

### 運動の重点

学校運営協議会とは…  
学校運営に関することについて、広い関係者で協議し、学校運営に保護者や地域住民の声を積極的に生かし、学校が地域と一体となって特色ある学校づくりを進める体制です。

(学校運営協議会の協議内容をもとに…)

◎チャレンジ!「体験活動」

地域行事、自然体験、伝承活動、勤労体験、奉仕活動等

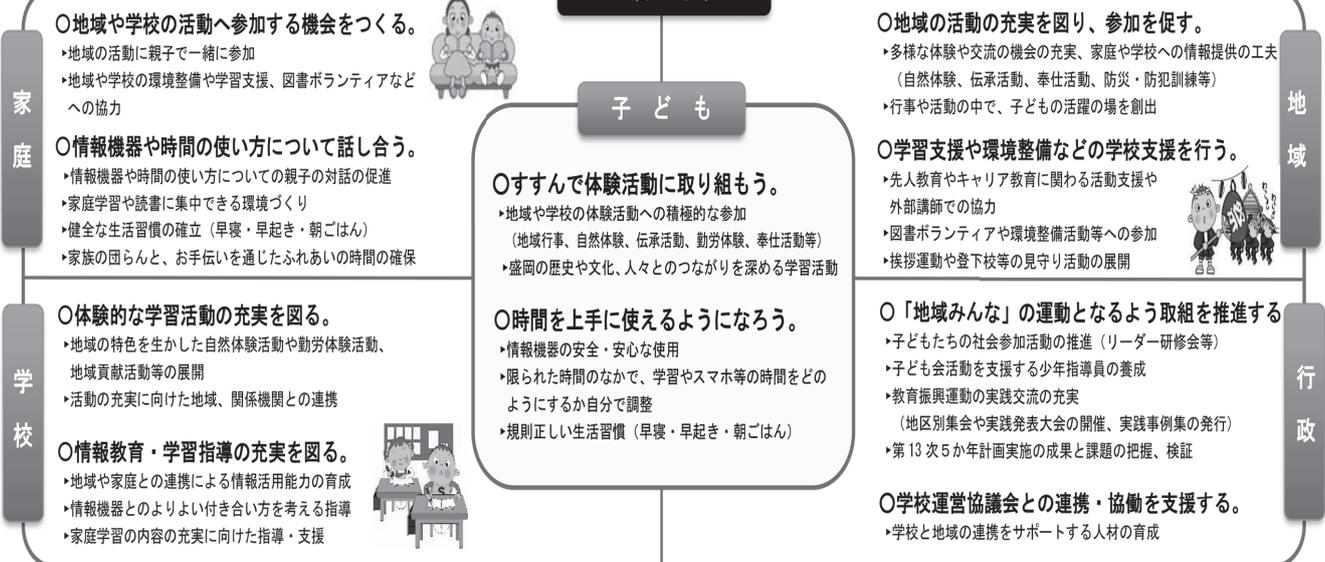
◎コントロール!「自分時間」

スマホ時間、学習・読書時間、家族との団らん、お手伝い等(時間の使い方)

教育振興運動とは…

子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」を育むために、子どもを中心に据え、家庭・地域・学校・行政の五者が、それぞれの役割と責任を果たす市民運動です。学校運営協議会との連携・協働で、「みんなの学校・みんなのまち」づくりを進めています。

### 五者の取組



「持続可能で実効的な運動」にするために…(第12次からの変更点)

#### 学校運営協議会との連携・協働

各中学校区教育振興協議会は、学校運営協議会で協議された各学校の計画・方針に基づきながら、具体的な活動や学校支援を行っていきます。

#### 中学校区を基本とした地区編成による小中連携の強化

小中連携の視点から、各中学校区を基本として第I～第VII地区の見直しを行いました。地区別集会年度別発表の学校区は、学校運営協議会の学校区と合わせています。

#### 複数学校区での地区別集会による交流機会の充実

1学校区の発表だけの地区別集会を改め、2～3学校区の発表を基本とすることで、各中学校区の負担軽減を図るとともに、他の学校区との実践交流による、取組の質の向上を図ります。

#### 盛岡市教育振興推進委員会

(構成) 各中学校区教育振興協議会代表  
各関係機関・団体の代表  
学識経験者  
(事務局) 盛岡市教育委員会

令和7年度

# 先人ゆかり給食 「米内光政ゆかり給食」

「盛岡の先人教育」推進の一環として、「先人ゆかり給食」を実施しております。「先人ゆかり給食」とは、市立小・中学校で、先人にゆかりのある献立を給食で提供する取組です。食を通して、「盛岡の先人」について理解を深め、敬う気持ちを育むことを目的としております。

今年度は、総理大臣・海軍大臣を歴任した米内光政にゆかりのある給食を、10月上旬、市立小中学校で提供しました。また、10月2日には、盛岡市立仙北小学校（村田浩隆校長）を会場校とし、内館茂市長等をお招きし、給食の会食会を行いました。

## 米内ゆかりの献立

米内にまつわる著書を参考に献立を決めました。

### ●ごはん

白米に感動した米内のエピソードにちなんで、麦の入っていないごはんをしました。

### ●盛岡豆腐カレー

当時、ライスカレーは珍しく、米内も「ずいぶん辛くて、どろどろしてましたね」と驚いたそうです。また、米内は豆腐田楽を6人前をペロリと食べるほど豆腐が好物だったことから、豆腐の入ったカレーにしました。

### ●おからコロッケ

米内は、おからもとても好きで、酒の席に用意したものを、大皿で三度もおかわりしたほごでした。

### ●ゆでやさいの甘酢和え

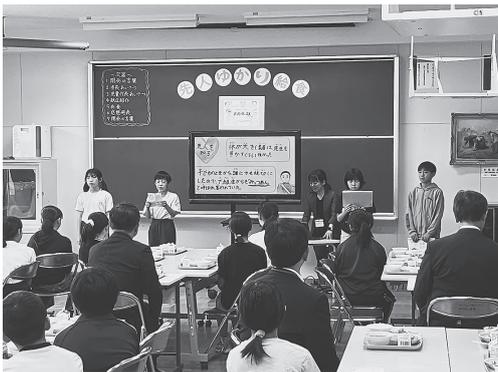
### ●ワインゼリー

ポーランドやロシアに駐在していた米内は、ワインも好んで飲んでいたようです。



## 会食会

内館茂市長、多田教育長、鈴木盛岡市先人記念館長にも御参加いただきました。仙北小学校からは村田校長の他、児童会執行部・給食委員の児



童31名が参加しました。仙北小代表児童による、米内にゆかりのある献立紹介の後、参加者全員で先人ゆかり給食に舌鼓を打ちました。参加した児童は、米内の食にまつわるエピソードを思い起こしながら給食を楽しんでおり、「本当にカレーに豆腐が入ってるよ」、「そんなに豆腐が好きだったんだね」、「おからコロッケは初めて食べたけれど、おいしいね。家でも作ってもらいたいな」など、米内に思いを寄せながら、味わう様子が見られました。来年度は、国際連盟の事務次長として活躍した、新渡戸稲造にゆかりのある献立を提案する予定です。



▼巻頭言においては、情報通信技術の進展がもたらす学校の在り方について、貴重な御示唆を頂きました。▼Googleの理念の基、これからの教育が歩むべき道について省察する機会となりました。学習指導要領が掲げる「基礎的・基本的な知識技能の確実な習得」と「思考力・判断力・表現力の育成」は、未来を切り拓く子どもたちにとつて揺るぎなき羅針盤であります。また、体育科における「楽しさの四原則」が示す、子どもの心の躍動を源とする学びの姿は、教育の本質を鮮やかに照らしております。▼さらに、教師が子どもに及ぼす「感化」の深さを思うとき、私たち自身の姿勢や語りが、子どもの未来に長く影を落とすものであることを痛感いたします。かつて心に刻んだ理想の教師像は、今なお私たちを導く灯火にほかなりません。▼教育文化を守り育て、次代へと確かに継承していくためには、互いの学びを重ね、対話を紡ぎ続ける営みこそ肝要であります。本稿が、その営みを改めて心に刻む一助となれば幸甚に存じます。